動物用医薬品

個別質問・名刺交換、可

国内外の市場動向／将来展望と開発の進め方

★今後、有望と考えられる新薬の開発分野とは？ ★新興国の動物薬の市場動向の発展性は？

★動物種別・薬効別の動物用医薬品の売上割合とは？

●日 時 平成25年9月30日(月)9:45～16:45

●聴講料 1名につき 49,980円(消費税込、昼食・資料付)

●会 場 [東京・五反田]ゆうぼうと 5F くれない東

[1社2名以上同時申込の場合のみ・1名につき44,730円]

講演者

【第1部、第2部】アームズ株式会社 代表取締役社長 氏政雄揮 氏

【第3部】一般財団法人 生物科学安全研究所 臨床・開発業務受託室 小田憲司 氏

【第4部】SBL(Security Business Laboratory)株式会社 動物用医薬品コンサルティング部 部長 中村 暁美 氏

① 日本と世界の動物用医薬品産業の現状と将来展望

【9:45～11:15】

【講演主旨】動物用医薬品の産業は、食品となる食料生産動物の健康や衛生の向上、コンパニオンアニマル(伴侶動物)と呼ばれる犬猫などのペットの健康や長寿化に大いに貢献している。この産業の展望を、国内外のデータをもとに考察する。

<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の医薬品産業と動物用医薬品産業 動物用医薬品産業における日本のプレゼンス 動物薬事業をもつ製薬企業の合従連衡 動物種別の動物用医薬品の売上割合 薬効別の動物用医薬品の売上割合 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、有望と考えられる新薬の開発分野 動物薬市場の発展余地は、新興国へ 動物薬ニュース(世界編) 動物薬ニュース(日本編) 日本の動物薬の規制緩和の方向性 	<ul style="list-style-type: none"> 再生医療等製品の獣医療における可能性 世界はベンチャー動物薬企業を求めている 新薬候補をいかに完成品の動物用医薬品にまで高めるか 飼料と混合される動物用医薬品の開発における注意事項 アームズが動物薬産業に貢献できること
--	---	---

② 小動物用医薬品・ペット用品の市場の選定方法とマーケティング戦略

【11:25～12:55】

【講演主旨】日本のペット市場は1.3兆円市場、ペットブームはこれからも続くと喧伝され、新規参入も多いが、市場に合致しない製品やサービスを提供して、見事に失敗し、撤退する企業も後を絶たない。少しでも成長に近づく市場選定の方法とマーケティング戦略を紹介する。

<ul style="list-style-type: none"> ペット市場1.3兆円の内訳 ペットブームはまだ続くのか？もう終わったのか？ セグメント別の動物用医薬品市場 セグメント別のペット用品市場 ジェネリックか、新薬か 	<ul style="list-style-type: none"> 製品選択の尺度(SCORE™) 販売チャネルの選択 忘れてはならない動物病院ルート 薬事法の抵触にご用心 低価格だけでは差別化できない 	<ul style="list-style-type: none"> あの製品のマーケティングは凄かった！ ファブレス(fables)開発の勧め 強い製品力がブランドをつくる 製品志向からマーケット志向へ 市場参入・マーケティングで困ったらアームズへ
--	---	--

③ 動物用医薬品における開発、試験の進め方(仮)

【13:35～15:05】

動物用医薬品の研究開発のご経験を基に、「試験デザインの構築・開発の進め方」や「開発に関わる省令・規制」などをご講演いただく予定でございます。項目につきましてはHPで随時更新する予定でございます。URLからご確認ください。 http://www.gijutu.co.jp/doc/s_309119.htm

④ 日本と欧米の承認審査の違いを考える

【15:15～16:45】

【講演主旨】日本と欧米との承認審査制度は本当にそれほど違うのか。承認審査の違いは制度の違いだけの問題なのか。実際の資料の違い簡単に述べ、更に、海外の企業が何をどう求めているかに言及しようと思います。

1. 日米欧の承認審査制度の違い

- 1-1. 米国の制度を復習
 - 区分 ・要求資料 ・審査プロセス ・メリット・デメリット
- 1-2. EUの制度を復習
 - 区分 ・要求資料 ・審査プロセス ・メリット・デメリット
- 1-3. 日米欧の違いの背景にあるもの
 - 日本のガラパゴス化と国際協調 ・安全性に関する考え方
 - 厳しいようでゆるい日本 ・MRLの奪い合い

2. Pharmaceuticals申請資料の比較

- 2-1. FDA申請 ・具体的な資料
- 2-2. EPA申請 ・具体的な資料
- 2-3. 日本との比較 ・費用と時間の比較 ・日本のデータが通用するか

3. Biologicals

- 3-1. USDAの考え方 ・動物に対する ・疾病のコントロールに関する
- 3-2. 日本との比較 ・欧州は日本に近い
 - それでも日本で使えるデータは限られる ・逆はどうか？

4. 日本の化合物がどのように導出されるか

- 4-1. 海外企業の物探し ・海外企業は特許を見ている
 - 必ずしも日本の効能・効果だけを評価しない
- 4-2. 海外企業による評価 ・基本データの開示
 - 独自で評価試験 ・独自の製剤検討
- 4-3. 海外製造への道のり ・製造コストの問題 ・技術移管の問題
- 4-4. パートナー探し
 - 日本にある外資系企業を通す場合 ・海外支店を通す場合

「動物用医薬品」セミナー申込書 No.309119 9/30

会社名	〒	事業所 事業部	申込書に必要事項をご記入の上FAXにてお申込みください。 ホームページからも申込できます。 http://www.gijutu.co.jp/ 申込書が届き次第、請求書・聴講券・会場案内図をお送りいたします。 受講料は返金致しませんので、ご都合の悪い場合は代理の方がご出席ください。
住所	〒		ご記入いただいた個人情報は、セミナーの受付・運営や、今後のご案内のために利用いたします(セミナー講師の方へもお知らせいたします)。個人情報の詳しい取り扱いにつきましては、宛名の用紙、又は下記URLをご参照ください。 http://www.gijutu.co.jp/doc/privacy.htm
TEL		FAX	
受講者1	所属部課 役職名	氏名(フリガナ)	e-mail
受講者2			
今後ご希望しない案内方法に×印をしてください (現在案内が届いている方も再度ご指示ください) [郵送(宅配便) ・ FAX ・ e-mail]			